

ユーザーレポート ～0の証明～

USER REPORT

据置型とモバイル型を導入、飲酒運転防止の意識を高める

富士急シティバス株式会社

富士急シティバス株式会社

富士急シティバス株式会社は、山梨県と静岡県東部を中心に運輸・観光・不動産事業などを展開する富士急グループの一社として、貸切バス、首都圏への高速バス、乗合バスを運行している。観光やビジネス、地域住民の暮らしを支える重要な交通機関だけに飲酒運転の防止に日頃から注力している。



点呼時と運行先で検査を実施

川井氏：当社は、静岡県の東部地域を中心にバス路線を運営しています。運転士は140人おり、点呼場にあるALC-PRO IIで朝と夕方にアルコールチェックを行っています。貸切バスの乗務は朝が早く直接車庫に出勤する運転士もあるので、そちらにもALC-PRO IIを置き、運行管理者立会いの下でチェックしています。検査結果は、点呼場のある事務所で確認できるシステムになっています。また、泊りの業務となる貸切バスの運転士には、遠隔地対応のALC-Mobileを持たせています。他社のモバイル測定器を使っていた時期もあるのですが、記録性を重視して東海電子の製品を選択しました。

GPS機能と写真撮影によりアルコールチェックした時間・場所・人物を管理することで、点呼時と運行先での検査の整合性を取ることができます。



アルコールチェックの結果は運転士の将来を左右するだけに、機器の正しい使い方を知ることが大切です。例えば発酵性のあるものを飲食するとお酒を飲んでいなくても高い数値が出てしまう場合があります。飲食後に測定する時は必ずうがいをしようアドバイスしています。



バスは運休が許されない公共交通機関です。今後も飲酒運転防止に全社的に取り組み、安全運行の維持に力を注いでいきたいと思っています。

富士急シティバスの所長と運行課長は、東海電子が開催するセミナーに参加して飲酒知識を習得し、運転士の指導にあたっているという。そうした社内の飲酒教育とアルコールチェッカーの活用が相乗して安全運行に結びついている。

ご利用機器

パソコン連動記録型測定器

携帯電話連動記録型測定器

ALC-PROII

ALC Mobile

安全運行の意識が確実に向上

川井氏：アルコールチェックを義務付けた当初は運転士も抵抗感を示していましたが、今では運転前日の飲酒量や時間に配慮するようになりました。

当社の規定として、明らかに飲酒運転といえる反応が出た場合は、初めてであっても退職処分となります。厳しい処置ですが、それも時代の要請であり乗客の安全のためには必要なことだと考えています。

取材ご協力

富士急シティバス株式会社

富士急シティバス
指導運転士

川井 俊人 様

〒410-0302
静岡県沼津市東椎路475
TEL 055-921-0215
FAX 055-921-0480
URL <http://www.fujikyū.co.jp/citybus/>

